

学校だより
第23号

報徳

R.2. 6.12

校長 松下 公博

学びを再開しました

〜みんなと過ごす、せいじく〜

学校が再開して2週間が経ちました。子どもたちは、マスクをつけ、友達との距離をとり、新しい生活様式に沿って学校生活を送っています。先生に褒められて得意顔になったり、怒られてしゅんしたり、友達と笑い合ったり、けんかしたりする子どもたちの姿が戻ってきました。学習することの他に、「みんなと過ごす中で生きていく力が育つ場所」と

いうもう一つの大きな学校の存在意義を改めて感じます。自粛生活が長引く中、子どもたちの人との関りは、大半の時間が家族、その他は時々会う仲のいい友達くらいだったのではないでしょうか。気心の知れた家族や、仲良しの友達であれば、それほど大きな採め事もなく過ごすことができますでしょう。しかし、学校に出てくると、より多様な考えに触れる

ことになります。自分は今全く気にならないことでも気にする人がいたり、こんな時は当然こうするだろうという行動をとってもらえなかったりすることがよくあります。相手のことを理解して受け入れながら、自分の考え方や行動を変えていくことも必要になります。これが、将来自立して社会に出た時の力になります。長かった休校の影響で友達との心の

距離の取り方の勘がもどらないのか、採め事も発生しています。採め事は成長の糧です。子どもたちは家庭にいる時にはできなかった学びを再開しました。私たち大人は、そんな子どもたちが寄り添い、励ましながらい見守り続けていきたいと思います。ご家庭でも子どもの話をしっかりと聞いていただきますようお願いいたします。また、お尋ね等ありましたら、遠慮なく学校にご相談ください。

入学式をしました

6月2日に令和2年大切に「けんかを度入学式を行いました。しないで仲よくする」新型コロナウイルス感「ちゃんと話を聞く」染症蔓延防止対策のため学校生活でもっとも大めの休校により、例年より切なことです。一年生り二ヶ月遅れての入学式でなく、全員に守式でした。感染の危険性について欲しいと思いや授業の遅れなどを考えます。今年の一年生は4えると思いましたが、月に、何度か登校日しいものでしたが、当日に学校に来るだけというの一年生のにこやかなう落ち着かない状況で笑顔を見て、やはり実施したので、学校になじしてよかったです。当日に時間がかかるのました。実施の連絡からではないかと心配して当日まであまり間がなかったが、そんな心かかったのですが、全ての配は無用でした。みんなご家庭の保護者の皆様ななかにお礼口さんに参加していただきます。教室を覗きに行きました。ありがとうございます。先生の話をしっかりと、今年式辞でも「イリ聞いています。もう、ケちゃんの3つの約束」ひらがなを上手に書いた話をしました。「命を守るようになりました」